



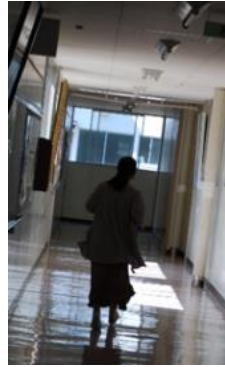
中里高校新聞

発行:青森県立中里高等学校
住所:青森県北津軽郡中泊町
大字高根字小金石567
電話:0173-58-3149

防災避難訓練

いざという時慌てないために

「火事だ！火事だあ！」
藤田清子先生が、大声で叫びながら走り出した。



職員室から職員が一斉に飛び出す。急ぎ火元の調理室へと向かった。



「訓練、訓練。ただいま調理室より火災が発生しました。生徒は教師の指示に従い、速やかに避難しなさい」―令和二年七月九日(木)六校時に行われた防災避難訓練は、職員も生徒も、真剣そのものであった。



避難完了後、生々しい体験談を交えた白濱校長からの講評があった。



この後、生徒数名が、救助袋で三階から避難する体験をした。袋内部がらせん状の滑り台になっている救助袋だが、体験によってはじめて分かることもある。「腕や足を袋の内側に押しつけて、滑り降りるスピードを加減する必要がある」とは、体験した3年男子か



らの情報だ。滑り降りる際、結構な摩擦が生じ、露出した肌を傷める可能性があるのだという。

最後に生徒たちは、教室でレポートをまとめ、防災標語も作成した。以下、生徒の作品から。

【二年生】

佐藤竣斗

「ガス栓をきちんと閉めて火事予防」
松橋想

「クルクルと下りれる脱出装置大事だよ」

菊池明香里

「冷静に火災がおきたらすぐ逃げて」

【三年生】

成田悠大

「なんどひのもときつへやまねぐなつてまればおせはんで。(あなたたち火の元には気をつけなさいよ。火事になってからでは遅いのだから)」

佐々木そら

「あつ忘れ物！その行動一つが命取り」

森田凧彩

「炎より熱い気持ちで避難しろ」

SBPシンヨロキア料理レシピ贈呈

令和二年七月一日

(木)、中里高校SBP

(ソーシャル・ビジネス・プロジェクト) 同好会三年

生の生徒たち七名(北島妃

愛、佐々木そら、野上琴

音、三和妃来、森田凧彩、

小寺駿平、山谷雅玖人)

は、津軽中里駅にある駅ナ

カにぎわい空間にて、昨年度

開発した激辛唐辛子「シ

ヨロキア」を用いた料理レ

シピを、中泊町の飲食店三

店(駅ナカちゃんこ食堂、

くつろぎダイニング哲、レ

ストラン竜泊)に贈呈した。



3年佐々木そらさんが代表しちゃんこ食堂にレシピ贈呈

贈呈式の後、レシピをもとに作られた「マーボーラーメン」が、新聞記者や関係者らに提供された。試食



した人たちは、あまりの辛さに悶絶。関係者の一人は、「すぐくおしい。でも辛い、辛すぎ。しかし、これは癖になる」とコメントした。



余りの辛さに悶え苦しむ白濱校長



3年山谷雅玖人君は壇上で「激辛マーボーラーメン」を余裕で平らげるパフォーマンスを披露

陸上競技部

高校総体代替大会出場



3年佐々木悠貴君の豪快なフォーム

県高校総体陸上競技の代替競技会が、七月一八日(土)、一九日(日)および二三日(木)、二四日(金)に新県総合運動公園にて開催された。

十九日(日)には、二年生三和美優さんが女子円盤投げに、二三日(木)には、二年生佐藤峻斗君が男子八百mに出場。いずれも初めて出場する種目であり、残念ながら予選通過はならなかった。

二四日(金)には、三年野上流聖君、佐々木悠貴君が男子やり投げに出場。野上君は、これまで取り組んできた走り幅跳びから一転、天性の身体能力の高さを生かしてやり投げに挑戦した。一方佐々木

君は、昨年度の新人戦やり投げで県三位、東北大会出場のスペシャリストだ。しかし、今大会には一般選手も参加、ハイレベルな戦いとなり、残念ながら二人とも決勝への進出はならなかった。

新型コロナウイルスの影響で、三年生最後の高校総体が中止となつてしまったわけだが、この代替大会で、同じ悔しさを抱く他校の仲間たちとともに競



い合うことができたのは、多少とも救いとなつたのではないだろうか。

閉校記念事業 実行委員会発足



本校は残念ながら、令和四年三月をもって閉校となるが、去る七月一七日(金)、本校視聴覚室にて閉校記念事業第一回実行委員会が開催され、閉校事業が本格的にスタートすることとなった。

閉校記念式典は、令和三年一〇月二日(土)に本校第一体育館にて挙行、式典終了後、パルナスにて「思い出の会」を開催予定。記念誌の発行、「思い出の展示」設置、

記念品の作成、他校との交流事業といった記念事業が計画されている。第二回実行委員会は一二月開催の予定。

バス遠足

令和二年七月二二日(水)、全校バス遠足を開催。午前中は、青森市の盛運輸アリーナ(県営スケート場)でインラインスケートを体験。最初は歩くのも一苦勞という生徒が多かつたが、しばらくするとコースを周回する姿がかなり見られるようになった。終了時間になつても皆まだまだ滑っていたような様子だった。インラインスケートは想像以上の運動量があるようで、一時間余りの滑走だったにもかかわらず、気付



ば皆滝のような汗を流し、へとへとになっていた。



午後は、青森市東部にある青龍寺を訪れた。深い森に囲まれた境内には、豪壮な山門と金堂、見事な枯山水の庭園、日本では四番目を誇る五重塔、日本一の青銅座像である昭和の大仏が配されている。鐘もつける、写経も出来る、おみくじも引ける、甘味処まである、お土産のお守りも充実。青龍寺は仏教のテーマパークといった様相を呈していた。コロナ騒ぎが起こる前まで、大型客船の外国人が大半して訪れていたのもうなずける。生徒たちは、ちよつとした修学旅行気分を楽しめたのではないかと。

八月の予定

- 一日(土)〜二六日(日) 夏季休業
- 一〇日(月) 田子高校との交流会



交流会で披露するねぶた囃子練習(7/20)

- 二二日(水) 同窓会総会
- 二三日(木)〜二五日(土) 閉庁日(※学校に入れません)
- 二七日(月) 代休日(八月一日)
- 一八日(火) 始業式
- 大清掃
- 第一回実力テスト(国数英)
- 二二日(金) 常識テスト⑦
- 二四日(月)〜二八日(金) 面談期間(五分短縮)
- 二六日(水) 授業料等口座振替日
- 二八日(金) 常識テスト⑧
- 中泊町少年の主張